

ツリフネソウ

Impatiens textori

ツリフネソウ科

名前の由来

花の形が帆かけ船をつり下げたように見えることからきたもの。学名の*Impatiens*には「我慢できない」という意味があり、これは果実にさわると瞬間的に縦に割れて、果片が渦巻状に巻き上がって中の種子を勢いよくはじきとばす性質を表したものである。漢字名：釣船草



ツリフネソウ

形態的特徴

高さ40～80cm。葉先はとがり、縁も鋭い鋸歯があるため、葉全体は鋭い感じがする。茎の節付近には濃い紅紫色の毛が密生する。花は紅紫色で袋状、上部の葉の根元からぶら

下がって咲く。花の内側に濃紫色の斑点、左右に大きな花弁があり、後方は尾状に細く伸びて先は巻く。

類似種と見分け方

キツリフネ。キツリフネの花は黄色い。葉の先は円く、縁にある鋸歯も浅く円味を帯びるため、葉全体が円くやわら

かい印象がある。ツリフネソウでは茎の節付近に濃い紅紫色の毛が密生するが、キツリフネでは毛がなくなめらか。



ツリフネソウの花



類似種のキツリフネの花



ツリフネソウ



ツリフネソウとキツリフネ

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■■■■■								
結実期					■■■■■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地～山野の林内、沢沿い、湿地や湿原の周辺などに生える。

分布：国外分布は、朝鮮・中国東北部。

国内分布は、北海道から九州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、平地～山野の林内、沢沿い、湿地や湿原の周辺などで見られる。

生活史

開花時期：7～9月中旬

開花までの年数：1年以内

寿命：1年草。

他生物との関わり

ツリフネソウの花粉はマルハナバチによって運ばれる。花の後ろに伸びて丸く巻く部分に蜜がたまり、マルハナバチが蜜を吸おうともぐりこむと、花の入り口上部にある雄しべからマルハナバチの背中に花粉がつく。ハチが何度も訪れた後には雄しべはすりきれてしまって花粉はなくなり、

中から雌しべがでてくる。雄しべの花粉がなくなってから雌しべが出てくることで自家受粉をふせぎ、なおかつ雄しべと雌しべが同じ位置にあることでハチの背中について運ばれた他の花の花粉を確実に受け取れる仕組みになっている。



ツリフネソウ。湿っぽいような場所に生育



ツリフネソウ。茎上部に見られる赤い毛が特徴的

興味深い話

■ツリフネソウの塊根には解毒作用があり、ヒゲ根を取り除いて日干しにした後、酒に浸したり粉末にして服用すると腫れ物に効果があるという。

■打撲には塊根をつぶして塗布したものをあてるとよいという。

配慮事項

生育している環境全体が大切である。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅱ」 佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「花のおもしろフィールド図鑑 秋」 ピッキオ 実業之日本社 2002

「見つけたい楽しみたい野の植物」 近田文弘・清水建美 旺文社 2000

「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ